



廃プラウォッチングニュース NO. 57号

廃プラ処理による公害から健康と環境を守る会 平成22年(2010)年7月7日
発行人: 牧 隆三 連絡先: 072-824-5963 <http://haipura.com>

廃プラ裁判控訴審 いよいよ結審 あなたも傍聴を

7月23日(金)午前10時半、大阪地裁大法廷202号

健康ときれいな空気を取り戻す判断を

廃プラ処理による公害から健康と環境を守る住民運動を始めてマル6年。健康被害が発生している廃プラ施設の操業停止を求める裁判の第二ラウンド、大阪高裁での控訴審は審理を終結する結審を7月23日(金)に迎えます。

一昨年9月の1審判決に対し原告住民が控訴。以来、1年10ヶ月、私たちは、多くの専門家の支援のもと、新証拠を次々に提出。また、多くの住民が「健康被害の事実」を陳述書として提出しています。私たちは健康被害のない、きれいな空気を取り戻す「あたりまえの判決」をもとめています。

つぎに、元太秦中町に住み、廃プラガスにより化学物質過敏症になり、引越しを余儀なくされた20代女性の手記をご紹介します。

(手記)

やむなく引越し、フランス留学の夢も断たれて

廃プラ工場ができるまで、風邪ひとつ引いたことのないOLでした。フラワーデザイナーの勉強にも楽しく通っていました。

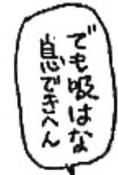
ところが、4年前、廃プラ工場が操業以来、鼻水が滝のように出る、電車の中で倒れる、眼や喉がしょっちゅうおかしくなりました。一昨年の冬、4市施設組合(かざぐるま)が操業してまもなく、体が硬直、冷や汗が止まらず、出勤も外出も困難になり、同じような症状で悩む母といっしょに専門のお医者さんに駆け込みました。医師から「転居しないと治らないよ」と宣告され、布団から衣類、すべての家財道具を置いたまま、急遽、母と引っ越しました。

引っ越して、近くの買物ぐらいはできるようになりましたが、電車で出かける自信はありません。裁判所で直接訴えたいのですが、病気が不安で、それがかないません。

化学物質過敏症を「精神病」だという医師もありましたが、幸い、昨年10月、健康保険の病名に認められ、「化学物質過敏症」は、社会的に認知されました。

化学物質過敏症の診断で第一人者である医師に診察してもらった寝屋川の人たちの多くが「自律神経や脳の中樞神経に障害がある」とか、「今症状がなくても、化学物質の影響を受けている可能性がある」と判断されていることは、たいへんショックです。

廃プラ施設からの有毒ガスで、私のような化学物質過敏症になる人がこれ以上出ないように、一刻も早く、きれいな空気を取り戻す裁判をしていただくことを心から望みます。



操業中に 火災発生

廃プラ施設「かざぐるま」 鎮火に5時間 消防署員二人が救急搬送 危険が浮き彫りに

6月14日(月)午前10時ごろ、廃プラ処理施設である北河内4市リサイクル組合(かざぐるま)の操業中に出火。消防自動車20台、救急車3台がかけつけ、警察官多数が周辺整理に当たりました。

火災は、廃プラを保管する場所やゴミ袋を破る破袋機周辺から出火したとされています。

初期消火では鎮火せず、黒い煙が立ち込めるなか、燃え続けること5時間。密閉構造の工場のためか、煙を外に出すためガラス窓を割ったり、屋根を切り抜き消防ホースを火災現場に届くようにするなど手間取ったようです。

午後になり2人の消防隊員が、救急車で病院に運ばれ応急治療を受けたとされています。



消火中の火災現場

住民にお知らせ活動をいっさいせず

火災現場から、数十メートルのところにある関西ホーム社の社員が、くさい臭いに気付き、窓をすべて閉めたりしましたが、気分が悪くなったり、頭が痛くなったりで1日中仕事になりませんでした。近くの自治会長が市の環境政策課に、住民の安全確保のため「火災を知らせる」「有害な煙を吸わないよう呼びかける」よう再三要請しましたが、「上司に伝える」「協議中」と言うだけで、広報活動をしませんでした。

「守る会」への説明を拒否

6月23日、「守る会」が4市組合に説明をもとめたところ、組合事務局長は「組合に協力する住民に説明するのは当然だが、あなたたちには説明しない」と異常な態度をとりました。6月25日「守る会」は改めて4市組合に説明を求める要望書を提出、枚方寝屋川消防本部と懇談しました。

??? 出火原因不明のまま操業を再開

火災のとき、プラスチックから有害ガスが発生するのは常識

火災発生から3週間たった今も未だに出火原因やなぜ鎮火に5時間かかったのか、有害ガスは本当に発生しなかったのか、4市施設組合は発表していません。

大切なことは、火災のときプラスチックから発生するガス、煙の中には有害な化学物質が大量に含まれていることです。ある県の防災学習センターの情報によれば次の通りです。

* ペットボトルから、アセトアルデヒドやベンゼン(いずれも発がん性、眼や喉などの粘膜を刺激する)

* ポリエチレン(PE)から、アセトアルデヒド、アクロレイン(アクリルアルデヒド)、メチルアルコール、ホルムアルデヒドなど

* 多くの場合、吸うと意識を失う一酸化炭素(CO)など